TSRを影で支える もう一つの部品とは

レースに使用するオイルは商品として販売されている物と同じ一般ユーザーが最優先されるべきだとニューテックは考えているからだ2003年からサポートを受けているTSRがニューテックを選んだ理由とはレース部部長の松山氏に話を伺った

写真／大西としや　文／川上滋人

「安心してレースで使えるものしか お客さんには薦めない」（松山弘之）

名門チームが選んだニューテック

元々、ホンダが鈴鹿でレース活動を始める拠点として作ったのが現在のTSR（当時のワールドモーター）。その後、ホンダは自社でレース活動を行なうためにHRCを創設。

そして、鈴鹿8耐の頂点にTSRが輝いたのが06年7月30日。

また、91年に上田昇を擁し、日本GPで衝撃的な勝利を獲得。これをきっかけに、グランプリのパーマネントチームとしてもTSRは戦ってきた。現在の会長である藤井瑄美氏が率いたホンダファクトリー活動を第1期とするならば、現在の社長である藤井正和氏のレース活動は第2期となるだろう。その第2期TSRが表舞台で目覚ましい活躍を遂げたのが88年の鈴鹿4耐。1000台に迫るエントリーの中、激戦を繰り広げていたノービスクラス。その頂点を決めるタフなF3クラスで見事勝利したのだ。このとき、ライダーとしてSPクラスを走り、90年のグランプリ参戦から現在までメカニックとしてTSRのレース活動を支えているのが、同社レース部部長である松山弘之氏だ。

90年のグランプリ参戦から現在まで、メカニックとしてTSRを支えてきた松山氏。88年には鈴鹿4耐にライダーとして参加した

さらに、TSRのレース活動を03年から支えてきたのがオイルメーカー『ニューテック』だ。数あるオイルメーカーの中で、なぜTSRは「ニューテックを選んだのだろうか。

「ニューテックのスタッフは、それまで別メーカーのオイルを扱っていたのですが、新たにニューテックを扱うことになり、彼らが薦めるのであればいい物だろう、というのが最初でした。実際にレースで使うまでには十分なテストを行ない、性能確認をした上で採用しましたが、なんの不安もありませんでした」

TSRも一般市販オイルを愛用

エンジンオイルは、ベースオイルと添加剤をブレンドして作られる。ベースオイルは大別すると、石油精製のプロセスからできる鉱物油と、化学合成油の二つ。現在では化学合成油が主流で、このベースオイルに粘度を調整する成分や抗酸化剤、摩擦抑制剤など、オイルに求められる性能を高いレベルで実現させるため、必要な添加剤をブレンドしてエンジンオイルが出来上がる。多くのオイルメーカーは、規格化されたベースオイルに様々な添加剤をブレンドし、エンジンオイルとして販売している。

年々、スポーツモデル、特にレースで使用されるスーパースポーツモデルは、飛躍的な性能向上を遂げている。どんどん進む軽量化やコンパクト化、そして高出力化。そのマシンの進化はエンジンオイルにとって、過酷な条件へと進んでいる。

その結果、レース用として販売されるエンジンオイルは非常に高性能なものとなる訳だが、ニューテックの場合、大前提として通常販売している商品のオイルそのものをレースで使っている。オイルを購入してくれるユーザーが、何よりも優先されるべきと考えているからだ。

TSRがレースで使っているオイルも、TSRに商品として届けられる物と同じ。

「TSRもニューテックと同じで、応援してくださる方、そしてバイクやパーツを購入したり、エンジンメンテナンスを依頼してくださるお客さんを一番に考えています。我々が安心して使える物でなければお客さんに薦められませんし、アドバイスもできない。特にエンジンオイルは、エンジン性能に大きな影響を及ぼします。トラブルが出ると大きな出費となり、危険につながります。安全は何よりも優先されるべき。ですから、安全にレースをするためにも、信頼できる物をお客さんに薦めなければならない。そうして薦めているのが、ニューテックのオイルです」

とは言えど、マシンのチューニングもシーズン当初と終盤では変わり、進化していく。

「シーズン途中でマシンの進化状況により、気になる部分が出たりする。ニューテックのスタッフに相談すると、すぐにブレンドして従来のオイルの進化版をプロトタイプとして持ってきてくれるんです。さらにはほかのニューテックユーザーチームがどんなオイルを使い、どんな結果を出したのか、情報の共有もしてくれる。例えばJSB1000クラスを戦っているほかのチームは、うちが使っているオイルの粘度よりワンランク下でも問題が出ていない、とかですね。粘度が高いとフリクションになりますから、使えるなら粘度の低い方がいいのです。また、うちだけでは分からない使い方をアドバイスしてくれますので、その点はライバルに対して大きなアドバンテージになっていると思います。もちろん我々のデータは市販品に即フィードバックされる。そのあたりのレスポンスはレース並みですね」

エピソードはない信頼がすべて

「ニューテックのオイルを使い、こんなときに助けられた、というエピソードがあれば話としておもしろいのでしょうが、エンジンオイルにとって一番大切なのは壊れないという信頼ですからね。そうしたエピソードは残念ながら一つもありません。ないから安心して使えるのです」

レギュレーションの中で可能な限り、性能向上をねらってチューニングは行なわれる。そしてポテンシャルを最大限に発揮できるよう、多角的にセッティングを詰めていく。エンジンは、足回りのセッティングを出すためにも非常に重要な要素で、ここがしっかり決まっていないと、あまり意味のないセッティングデータになってしまう。

「ニューテックのオイルを入れておけば、その点に気を遣わなくていい。安心がエンジンオイルには一番求められる」

量販店での販売を行なっていないニューテック。さらにTSRがレースで使っているRX-4-A05（CBR1000RRに使用）、NC-510（CBR600RRに使用）はカタログに掲載されず、パッケージも金属缶に簡易シールを張り、商品名がプリントされているだけ。

「性能の高さを分かってくれる人に使ってもらいたい、そんな思いなんでしょうね。でも一度使ったらやめられません。うちにはそんなお客さんがたくさんいます」（TSR鈴鹿店店長山下智氏）

間もなく開催される鈴鹿8耐。TSRはニューテックのオイルを入れて、長く過酷なレースに挑むことになる。今年一番鈴鹿を盛り上げてくれるチームはどこなのか。もちろんTSRにも大きな期待がかかっている。